

2005

【応募期間】 2005 年 8 月 22 日～10 月 7 日

【応募状況】 10 校（県内 6、県外 4）、35 件（108 人）

【審査結果】

《グランプリ》

買い物カート

佐藤祥太（宮崎県立宮崎商業高等学校 3 年）

《優秀賞》

変形グリップ

長友由美（宮崎県立宮崎商業高等学校 3 年）

《奨励賞》

農村部派遣会社

後藤翔太（兵庫県立神戸商業高等学校 3 年）

《努力賞》

携帯電話を用いた防災

興石一也 ほか 4 名（大分県立佐伯豊南高等学校 2 年）

注ぎやすいペットボトル

久保明日香（大分東明高等学校 2 年）

美容室の進化型予約

高倉大幸（大分県立大分上野丘高等学校 2 年）

宮商デジタルソリューション

川野史恵・コンピュータ部（宮崎県立宮崎商業高等学校 3 年）

産官学の連携による商品開発

谷本涼香 ほか 10 名（愛媛県立大洲高等学校 3 年）

《特別賞(大銀モバイル街づくり奨励賞)》

佐藤美由紀・松尾真希・松永みゆき(全 62 名)（大分県立臼杵商業高等学校 2 年）

【審査講評（抜粋）】

グランプリの「買い物カート」は手書きの図もわかりやすく、買い物かごをサッカー台へ楽に移動するという単純だがユニークなアイデアで、審査員全員一致で受賞が決定した。

優秀賞の「変形グリップ」は手の不自由な人やお年寄りのためのアイデアで、応用範囲の広さと素材の研究まで詳しくなされていた点が優れていた。

奨励賞の「農村部派遣会社」は過疎化で労働力不足が深刻化する農村への労働供給のための人材派遣会社案で、採算性に難しい面もあるが、社会的意識の高さがうかがえた。

努力賞の 5 つのアイデアも、高校生のフレッシュなセンスを表現したもので上位入賞には後一步であった。

特別賞（大銀モバイル街づくり奨励賞）は、当初の応募規定にはなかったものだが、同一高校から 62 名という大量の応募に学外審査員が感銘を受けて、特別に設定した賞である。「こんなお店が自分たちの街にあったらいいなあ」という日頃の素直な目線を数多く企画したものである。

応募作全体を通して、応募者が発想のプロセスを楽しんでくれた様子が想像でき、高校生の豊かな創造力に審査員一同が感動を覚えた。

